

2006年5月12日  
文化政策部会ヒアリング資料

## 文化芸術活動への支援のあり方（レジメ）

財団法人東京二期会  
常務理事・事務局長 中山 欽 吾

「文化芸術活動」という言葉の解釈：我々のやっているのは「芸術活動」であり、その結果として文化の発展に寄与すると考える。

### 「文化芸術活動への支援のあり方」についての三つの視点：

#### (1) 芸術活動とは自分にとって何か：自分のよりどころについて

- ・ 産業界出身者からみた芸術活動は「ひと、もの、かね」の世界
- ・ 目的は芸術であっても、産業であっても行為としての本質は変わらない
- ・ 知的というよりは、むしろ肉体労働の成果

#### (2) 立場によって見方が変わるということ：自分の持っている視点

- ・ 芸術活動に関わる立場によって「芸術活動」という言葉の意味は違っている
- ・ 内側で作っている立場から見ると、結果よりプロセスが重要

#### (3) 芸術活動の経営的側面

- ・ 「芸術活動」の結果、目に見えないエネルギーが介在して鑑賞者が何らかの「感応」を受けるのが芸術を通じた文化活動
- ・ そのエネルギーは、公演を行うための準備にかかる膨大な時間とコスト、関係する多種多様な芸術家達と同じ場に立ち、お互いに切磋琢磨することによって発生する

### 「ものづくり」の本質

- ・ オペラの制作過程ならびに関係する人を別紙（表1および図1）に示す。
- ・ 「品質の作り込み」→「芸術活動」であるオペラの制作過程と産業との類似性

## 支援とは？

- ・「ひと、もの、かね」
  - ひと = 芸術家、スタッフ、聴衆に対する支援は異なる
  - もの = 舞台、会場、機会、環境全体が「芸術活動」プロセスに関わる
  - かね = 入場料収入、公的助成、民間助成、各項目の比率が問題
- ・時間軸にかかわる判断 → 長い準備期間、継続性、蓄積再創造のサイクル
- ・重点支援と支援対象多数（広く、薄く）の得失

## オペラと産業界の類似点：芸術という要素の作り込み

- ・文化は芸術の専売特許ではない
- ・他国、他民族から見た日本の独自性が文化として認知される
- ・作っているものは同じオペラでも、作り込みの中で日本独自の芸術的要素が入っていき、その結果として生まれ出た舞台が文化的価値を生む
- ・異ジャンルの芸術家がお互いの考えをぶっつけ合いながら作り込んでいく過程が、競い合いによる新たな価値観の創造に結びつく

## 文化の有無は受け手によって決まる

- ・何をすれば「文化の創生」とか「文化の発信」になるのか
- ・文化の受け手、つまり世界の人々が「これこそ日本の文化だ」と言ってくれて初めて実現すること
- ・国際的協業は日本独自の文化を彼我でお互いに認め合う経験を持てる点で重要
- ・我が国独特の「作り込み」プロセスに対する外国人の驚きと敬意
- ・極言すれば「ものづくり」そのものが「日本文化」

## 支援のあり方

- ・「芸術活動」重要な要素として「創作過程」を入れなければならない
  - 芸術的な成果が作り込まれることの重要性
- ・創作過程に一番お金がかかるが「もの作り」ノウハウ（芸術要素）も蓄積する
- ・参加する芸術家の裾野が広いほど、その成果が出演者や専門スタッフを通じ多くの市民レベルのオペラ活動に浸透し、全体のレベル向上につながる

→重点支援の波及効果という二次的な意義

- ・異なる団体同士による競争が新しい価値観を生む

#### 文化芸術活動は継続的な営み：ポートフォリオの重心とそれに対する自己評価

- ・文化芸術活動は継続的な作業が前提であり、イベントとは区別をすべき
- ・年に数回のオペラ公演で団体としてのアイデンティティを示すには？
- ・「やりたいからやる」という次元からはっきりと目標と達成方法を示す段階へ
- ・団体側は、重心（団体としてのアイデンティティ）と特定演目の重心からのずれ、進むべき方向性等の評価項目を明示し、結果についての自己評価を行う
- ・評価側も、制作プロセスやポートフォリオを考慮した、各団体のアイデンティティに基づく継続的な活動としてみて頂くことが重要

#### 育成は次世代に対する重要な責務

- ・二期会（当時は財団法人二期会オペラ振興会）は新国立劇場ができるまで22年間文化庁の委嘱でオペラ研修所を運営してきた。
- ・自団体の公演に出演できるレベルの歌手を養成するのは、実際の芸術活動にリンクさせながら新人の養成が行われなければならない
- ・機関団体で行うには、スタッフと訓練の場がなければできないことで非現実的
- ・研修所への助成の道を開いて頂くことはできないものか

#### アジアにおける日本の立場

- ・ソウル、上海、シンガポール、北京と立派なオペラ劇場が建設されている
- ・日本のオペラ作りそれらの国よりは30年先を走っている
- ・各国とも羨望に似た好意を寄せており、共同制作の要請がきている。
- ・国際共同制作での助成金額の増額があればより踏み込んだ共同作業が実現し、アジアにおけるリーダーシップをとることができる。
- ・オペラという普遍的芸術における平和的な関係の強化と、「ものづくり」ノウハウの移転

以上

表1 オペラづくりに関わる人々

|            | 創作者系列  | 製作・稽古   | 出演者・演奏者  | 制作  | 当日の運営  |
|------------|--|---|--|---|--|
|            | (作曲家)<br>(台本作家)  |   |  | 公演監督  |  |
| 音楽<br>スタッフ | 指揮者<br>合唱指揮(1~2)<br>副指揮(2~4)   | コレペティトウアー<br>稽古ピアニスト<br>(3~5)<br><br>副指揮<br>児童合唱指導                                    | ソリスト(8~32)<br>合唱(12~150)<br>管弦楽(20~150)<br><br>児童合唱(10~20)<br>バレエ・ダンス(4~10)<br>助演(0~5) |   | 字幕キュー出し<br>字幕操作<br><br>合唱指揮<br>プロンプター  |
| 舞台<br>スタッフ | 演出家<br>演出助手(1~2)<br><br>舞台監督<br><br>字幕制作<br>美術プランナー(1~2)<br>(装置・衣裳)<br><br>かつら(3~5)<br>メイク(4~5)<br><br>照明プランナー<br><br>音響<br><br>映像 | 演出助手<br><br>舞台監督助手(4~8)<br><br>装置製作(外注)<br>衣裳製作(4~6)<br>助手<br>かつら製作<br><br>履物<br>照明助手 | プロジェクト参加人員<br>ステージ: 50~350<br>バックステージ: 25~40<br>フロント: 10~20<br>-----<br>合計: 85~410     |   | 舞台監督(1)<br>舞台監督助手(4~8)<br>(舞台キュー出し)<br>(舞台作業)<br><br>大道具・小道具<br>衣裳着付け<br>洗濯・縫製・プレス<br>かつら・メイク<br><br>履物<br>照明オペレーター(6~10)<br>音響オペレーター(2~3)<br>映像オペレーター |
| 制作<br>スタッフ | 通訳(2~4)  | 稽古場管理   |  | 資金調達(1)<br>広報・宣伝(2)<br>チケット販売(3~5)<br>票券(1)<br>プログラム作成(2)<br>調整(1~2)<br>稽古場管理<br>楽譜管理 | フロント・スタッフ<br>(5~8)   |

図1 オペラ制作のフローチャート  
 ( )内数字は公演前の期間を示す

